

# 学びの広場

## 各種施設での事業(その8)

今回は「弥勒寺多目的集会施設」で行われている事業の様子を、弥勒寺自治会長の熊澤哲さんに伺いました。

### 素晴らしい眺望 弥勒寺多目的集会施設

弥勒寺自治会は、現在267世帯の松田町としては少し大きめの自治会です。また、寄地区の中央に位置し、清流中津川沿いに広がる地域です。

住民の活動拠点となる弥勒寺多目的集会施設は、弥勒寺地域の中心の高台にあって、眺望も素晴らしい施設です。自治会で一年間を通してさまざまなイベント、会合などに大いに利用されていますが、一般の団体の方々にもご利用いただいています(有料)。

【問い合わせ】教育課生涯学習係 ☎(83) 7023



素晴らしい眺望の  
弥勒寺多目的集会施設

### 世代を超えた親睦

#### 文化祭&収穫祭

文化祭&収穫祭は、平成17年の秋から開催しています。地元アマチュアカメラマン自慢の写真や自治会活動の写真、自称「巨匠」の油絵、流木の芸術品など、多くの作品が展示されます。



愛情込めて手打ちうどん



多くの参加者と「ハイ、チーズ」

収穫祭では、集会施設に隣接する自治会役員と有志で荒地を開墾して作った『弥勒寺農園』から収穫した芋で芋煮鍋を作ったり、野菜の販売、お餅つき、お母さんたちによる手打ちうどんを振る舞い、子どもには、ゲーム、綿菓子なども用意されています。また、祭囃子保存会の演奏とハーモニカ伴奏による歌などに、世代を超えた自治会員の親睦に大いに役立っています。

### 弥勒寺祭囃子保存会練習 (毎月10日・20日)

お囃子キッズ(子どもたちのお囃子チーム)の指導、寄神社の例祭、寄祭囃子保存会本部から要請のある各イベントでの演奏、そして何より、お囃子2曲と段物13曲(奉納する曲)を次の世代に形を変えずに伝えることに力を入れています。



伝統芸能を受け継ぎます

### 松田中学校ナイター照明 利用期間を延長します

学校施設の一般開放により松田中学校グラウンドとテニスコート(1面)のナイター照明は、4月から10月末日まで開放していましたが、利用者からの要望、町のスポーツ振興、利用者である町民の健康維持などを考慮し、このたび、年末年始を除く通年、使用できることになりました。

ただし、電力不足などの理由により利用を見合わせる場合があります。なお、ナイター照明を利用する場合は、登録などの手続きと、使用料が必要となります。利用を希望する場合は、教育課生涯学習係 ☎(83) 7023までお問い合わせください。



### 自彊術寄教室 (毎週水曜日 月3回)

自彊術とは、あまり聞きなれない名前ですが、日本最初の健康体操と言われているものです。31の動作があり順番に全身をくまなく動かすことで、心と身体の調和を図ります。自彊術普及会指導員、藤澤貴美江



先生の指導のもと、和やかな雰囲気の中で行っていますので、興味のある方はいつでも見学に來てください。美容と健康に最適です。

### 第2回 町民コンサート 参加者募集

町民の皆さんの演奏による芸術発表として、時には演奏曲を来場者が歌うなど、演奏者と来場者が一緒に楽しめるコンサートを開いています。

第1回は7月26日に開催しました。コンサートでは、大正琴、ハーモニカ、ピアノ、バイオリン、オカリナなどさまざまな楽器の演奏が行われ、来場者から「松田にはいろいろな才能のある人がいることに驚いた」などの感想がありました。

このような新たな生涯学習の形、第2回町民コンサートに演奏者として参加してみませんか。第2回は、11月22日(木) 13時30分から町民文化センター展示ホールで開催します。詳細は教育課生涯学習係 ☎(83) 7023までお問い合わせください。

### 藍染の会 (毎月第4日曜日)

藍で染めよう! 寄の耕作放棄地を活用して、藍を育て藍染を楽しんでいきます。現在会員は19人で、身近な草木を使った草木染にも挑戦しています。学校やPTA、グループなどへの出前体験講座も行っています。



「一緒に藍染を楽しみましょう!」か! されいに染めあげりました

### 寄筋トレサークル (毎週木曜日 月3~4回)

現在12人が体力づくりに取り組んでいます。内容としては、ストレッチ、ダンベル、チューブを使った運動です(写真)。



「やってみようかな」と思った時が始めの時です。年齢は問いませんので、興味のある方の参加をお待ちしています。

### 馬頭観音

観世音菩薩(観音)は古来仏教の代表的な菩薩(悟りを求め、衆生を救うために修行を重ねる仏、如来の次に位置する)として信仰されてきました。

### 松田の文化財探訪

#### 「歴史的建造物その4」 町文化財保護委員 平賀康雄



中尾農道脇馬頭観音  
腕は二臂(本八臂に幾つかの武器(斧や剣)ほか)や飾りを持つものもあります(一般的には一面二臂の合掌像が多い)。

衆生の煩惱や苦厄を断ち切るというものです。時代が下がるにしたがい(江戸中期以降)、馬頭観音像(おおかたは石像)の造立目的のほとんどは牛馬、特に馬の供養のためのもとなりました。

西国、坂東、秩父のほか全国各地に三十三観音の札所があり、ただ一心に「南無観世音菩薩」と唱えるだけで悩める多くの人々の苦厄を救うという慈悲の仏とし、人気を集めてきました。

各種ある観音の中で、よく知られるのが七観音(聖、十一面、千手、如意輪、准胝、馬頭、不空羂索の各観音)ですが、その中で石仏として圧倒的に多いのが馬頭観音です。

正式名称は、馬頭観世音菩薩。本来の功德、働きは、その憤怒相の示すごとく、あらゆる魔障を破り、

松田地区では、中尾農道(一部が旧最明寺に至る参道)脇に十数基延命寺、宝寿院境内ほか、町内に散在しています。寄地区では、福昌院境内のほか、道ばた、山の入り口などに多く見られます。